

講評

I

出典『子どもが忌避される時代—なぜ子どもは生まれにくくなったのか』（本田和子）
新曜社

読みにくさのある文章ですが、内容は難しくありません。

問1【漢字問題】（解答番号は①・②）

- b ⑤模倣芸術 が正答です。正答率は85%。
e ②巧言令色 が正答です。正答率は23%。

問2【漢字問題】（解答番号は③～⑫）

正答と正答率を示します。

- a 注視（67%） c 速断（37%） d 辛抱（79%） f 連綿（25%） g 遭遇（77%）

問3【接続詞の空欄補充】（解答番号は⑬～⑮）

空欄の前後の内容を把握し、文脈上適切な語を選ぶことが肝要です。正答率は56%でした。

問5【指示語の内容を考える問題】（解答番号は⑰）

2行前の「わが国の家族写真に目を向ければ」を受けています。正答率は48%でした。

問6【慣用句の意味と内容理解に関する問題】（解答番号は⑱）

傍線部Cの主語が「子どもの中心化は」であることを押さえると、①か②に絞られますが、「怪我の功名」の意味を合わせると正答は②です。①は「物事の本質がわかること」が間違いです。正答率は29%でした。

問7【指示内容を読み取る問題】（解答番号は⑲）

所以（ゆえん）は理由の意です。この段落全体を読めば、写真技術が家族観の変貌に寄与したと筆者が考える理由が把握できます。④は「見る視線」が曖昧で不適切です。正答率は67%でした。

問8【空欄補充】（解答番号は⑳）

「中心」の対義的表現が入ります。正答率は50%でした。

問9【内容理解に関する問題】（解答番号は㉑・㉒）

正答は③・⑥です。他の選択肢は主として次の部分が間違いです。①「公的記録の用途のために」、②「肖像画に比べて写真は、簡単に短時間で作成できることから」、④「明治から現代にいたるまで」、⑤「日本社会の建前を表すものとして」、⑦「これは他の技術の場合以上に」、⑧「本来の両義性」。正答率は21%でした。

Ⅱ

出典 『日本語と外国語』（鈴木孝夫）岩波新書

問題文は長くて丁寧に読まないで理解しにくい箇所がいくつかあります。しかし、日本語がテレビ型の言語であることを常に頭において読み進めれば、全体の流れは掴みやすくなるでしょう。説明が必要と思われる設問のみ以下で解説します。

問1【漢字問題】（解答番号は23～32）

正答と正答率を示します。

a 競合(54%) b 転位(6%) c 即座(85%) d 微妙(100%) e 逸脱(92%)

問5【空欄補充】（解答番号は37）

「機能論的な」という言葉は見慣れないかもしれませんが、空欄「丁」のすぐ前にある、日本語で「どうすれば無駄なく合理的に漢字を使えるのか」という観点を言い換えているのですから、漢字の働き、機能に着目する「機能論的な」が正答です。正答率69%でした。

問6【説明】（解答番号は38）

傍線部Aの前に「音声の面と意味構造の面で二重の制約をもつ」とあります。選択肢の③以外は、音声の面での特徴からどのような弱点があるかを述べており、意味構造そのものには触れていません。正答率は15%でした。

問7【関連説明】（解答番号は39）

日本語がテレビ型言語であることを高級語彙について例示している説明を選びます。「蜂食性」を例にとって、漢字で表記すると意味がわかりやすくなるという選択肢が適しています。正答率は35%でした。

問8【内容合致】（解答番号は40）

本文の主張と合致していないものを選ぶ問題です。最後の段落から、日本語にとっての漢字の必要性を強調していることは読み取れますが、更に増やしていく方がよいとまでは主張していませんので、④が正答です。正答率は23%でした。

問9【小見出し補充】（解答番号は41・42）

小見出しの空欄「乙」については、次の小見出し「同音衝突の原理」の最初に「このように考えれば、日本語の第二の特徴」、つまり意味が同じような文脈に同音語が多いということも無理なく理解できる、とありますから、前もって空欄「乙」の個所で日本語がテレビ型言語であることを結論づけていると考えます。正答率は10%でした。